The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	特集 臨床哲学の現在 ： 哲学カフェ/高校での哲学教育
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2005, 14, p. 3-3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/9056
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

臨床哲学の現在—哲学カフェ／高校での哲学教育

本メチエでは、〈臨床哲学の現在〉を伝える取り組みとして、「哲学カフェ」と「高校での哲学教育」を再度取り上げる。

前者については、それぞれの現場で継続的に哲学カフェを試行しつづけておられる３人の方々に文章を寄せていただいた。はじめに武田朋士さんからは兵庫県立須磨友が丘高校で、渡邉美千代さんからは愛知医科大学看護学部の教養ゼミナールにおいて、それぞれ行なわれた哲学カフェの模様について報告をしていただき、つづいて藤本啓子さんからは、ご自身の「哲学カフェ」との出会いから、哲学カフェにおける「進行役」の役割についてエッセイ風に論じていただいている。

後者にかんしては、2003 年度に大阪府立福井高校で行なわれた「出会いのてつがく」、ならびに 2004 年度に京都の私立洛星高校で行なわれた「生命と哲学」の授業の内容を、臨床哲学の重要なツールである「メーリングリスト」において各担当者によって随時なされた報告をもとにしてお伝えする。

本紙で綴られている事柄は、おのおの現段階においてはむろん「結果報告／予備考察」の域を脱してはいないだろう。いずれここで述べられた言葉をもとにして、それぞれの報告者が『臨床哲学』などにおいて独自の考察を展開されることを編者としては望んでいる。

臨床哲学学生研究室の様子